

評価項目	成果と課題	改善策
① 人権尊重・生命尊重を基盤にした教育活動を進めている	・今後も児童一人一人の実態の把握に努めてほしい。 ・夏季、冬季いじめ問題サミットに参加し、意識を高めている。また、異学年交流も実施し、相互信頼の基盤を作っている。思いやり親切ボックスや思いやりの木運動など人間尊重を図っている。 ・「町内会との花壇づくり」や「畑づくり」の実践は、相手を思いやる気持ちを育み、いのちを尊ぶことの大切さを学ぶことにつながっているのではないかな。 ・人権や命にかかわる授業等での取組は、保護者アンケートで評価されている反面、校外での子どもたちは、人を見ての言動には問題があるようだ。 ・学年の垣根を越えて、下の学年は上の学年を手本とする系図ができています。生命尊重という面では、深く踏み込めていないように見受けられる。	・あいさつ運動が定着化しているが、マンネリにならないように（顔を見ないであいさつ、声が小さい、首だけ） ・機会あるごとに、子ども一人一人に命の大切さを教えていくべきだと思う。 ・生命と向き合っている仕事をしている人々に、もっと生きた体験の話を聞く機会を設ける。（医師、看護師、救急救命士等）
② いじめ問題・不登校児童への取組	・校区の地域と連携を図りいじめ防止に関する取組を地域で行なうには情報等が少なく、（不登校も同様）対応しづらい。 ・校内いじめ対策委員会の設置で毎月末に会合を持ち指導している。また、児童への指導強化でも「いじめ0運動」等で児童会の取組も進めている。 ・良好である。 ・いじめアンケートは良い取組だ。アンケート結果をどのように生かすかが課題である。 ・早め早めの対応がなされていて良いと思う。先生との関係が深くなるにつれて信頼を得ている。 ・職員全員でいじめを起こさないように努力している様子がうかがえる。 ・対策委員会で年間計画やチェックリストを作り行動している点、また児童自らが「児童会だより」でいじめゼロを再三呼びかけていることは心強く思った。 ・いじめアンケート結果を見ると、昔ではいじめと思われないちょっとした悪ふざけも含まれているように思う。 ・いじめ問題は対策委員がいじめを考える日等で取組を行なっていて評価できる。形だけにしないよう、充実したものにしてほしい。不登校の働きかけは、とてもすばらしく聞かせていただいた。早いうちから個別に対応していて、とてもよいと思った。	・社会の変化により、いじめにも変化が生じている。対応についての研修が必要である。 ・不登校の情報は少ないが、家庭環境、児童の健康状態等、父母に積極的な対応を更に求めるべきだ。 ・保護者、地域の意識向上を持ってもらうためにも、事例等を発する。地域にも研修を実施してはどうか。 ・アンケートの期間を短くってみてはどうか？毎月とか四半期とか。 ・問題発生時に担任個人が抱えず、教師全体で対応していくことが特に必要である。 ・いじめ問題も不登校問題も、現在考えられる、あらゆる対策を講じて一人一人に対し、地道な活動を継続する必要があると思う。 ・いじめ問題については、当事者の児童に対しての教育はもちろんですが、周囲の人々の対応の方法等も発信してほしい。
③ 健康で豊かな心を育む教育の充実に努めている	・よく取り組んでいると思う。 ・開校30周年に伴う歴史の紹介や発表会がよかった。多くのジャンル、外部講師による授業などよく取り組んでいる。 ・多彩な外部講師による授業に驚いている。 ・歩道橋清掃はボランティア精神を、また、多彩な外部講師による授業は豊かな心を、それぞれ育んでいると思う。 ・外部講師による各種授業の取組やなわとび大会等について、保護	

	者からも好評であり、特に、外部講師による、学校では学ぶことのない授業は、子どもたちにとっては新鮮に感じているようである。 ・限られた時間の中で、さまざまな取組を取り入れていると思う。取組を行なう中で、行事の目的とそれで得たものを小学生なりの視点で、明確なものにしてほしい。	・物事を行なう上で、目的、行動、それによって生まれる成果を明確にし、充実感、達成感を味わう取組をしてほしい。
④ 研修活動の推進と「分かる授業づくり」を進めている	・参観日等で見ているが、わかりやすく教えられていると実感できる。 ・授業公開や研究授業は大いに評価できる。また、大学の先生を招いての授業づくりや外部講師等の人材を招いての学習会等、積極的な取組を評価する。 ・良好である。 ・研修活動は頑張っていることがわかる。太田先生の理科の授業はできれば続けてほしい。 ・素晴らしい。 ・研究や研修に努めている。 ・児童を理解し、模範となる言動を心がけていることは、学校を訪れるたびに感じられる。 ・各部で目標を立て、その目標の達成度を評価し、反省点・課題点を出して、教職員間で協議検討を行なっているのでよいと思う。 ・授業を、「楽しい」「分かる」ものに行っている取組が良いと思う。授業が楽しく、将来の自分の姿を描けるものになるようにしてほしい。	・保護者への学習サポートのしかたを助言してはどうか。 ・今後も教職員間で協議を行ない、場合によっては、他校及び外部学識者の意見を聞くことも必要ではないか。 ・多忙な教師の皆さんなので、ストレスが蓄積しないか心配している。オンとオフの切り替えを自ら行ない、リフレッシュを心がけてほしい。 ・「なぜ勉強するのか」「勉強がわかるとどんな良いことがあるのか」目的をはっきり伝えてほしい。
⑤ 基礎・基本の定着を基盤とした学力向上に取り組んでいる	・どの学年もいつも授業に集中していると感じている。 ・声の大きさ、歯切れに気になる先生がいる。 ・同じ授業でも学級によって進め方に差がある。 ・よく取り組まれている。 ・家庭学習に力を入れていることが分かった。 ・現状は取り組むべきことが多く、今の取組が精一杯かもしれない。 ・よく取り組んでいる。 ・少人数授業やＴＴ授業、家庭学習の取組など十分努力している。 ・算数科では、児童に応じて手厚く指導していることに感心している。今後は、英語教育の重要性が増すと思う。 ・家庭学習の定着は今後、中・高と進学していく上で大切なものと考ええる。量だけでなく効率よい家庭学習が大切だ。	・発音を意識して、子どもにとって聞きやすい声で授業を進めてほしい。 ・授業の進め方について子どもと相談しながら行なうのも、子どもが授業にかかわっているような意識になり、興味・関心もますますではないか。 ・英語はやはりネイティブの発音を聞かせることが一番では。ルディー先生を含めた外国人講師との交流時間を増やしてほしいと思う。 ・個人がつまずいている部分に気づき、その部分を理解できるような対策がとられたらよいと思う。親も学力向上への関心が高まる対策がとれると良い。
⑥ 全国学力・学習状況調査及び市統一学力テスト（４・５年）の保護者への結果公表のあり方	・家庭学習に力を入れていることが分かった。 ・総体的によい。学年、科目ごとに「今後の方策」を明記し、家庭にも呼びかけている。 ・実状を示すことにより保護者の意識化につながる。 ・グラフは分かりやすくて良い。配付された保護者がどう意識するかが大切である。 ・弱いところが分かっているのでよい。 ・細かい分析もありわかりやすい。	・学習のあり方について、学校と家庭が一体となって進めていくべきで、学力の結果を知りたがっている親は多いのではないか。 ・親が同じテスト問題を解いてみるのも面白いかもしれない。 ・人間関係にも当てはまることだが、行間を読む力が弱いのは、読解力が弱いからだ。読解力の強化が大切である。 ・点取り対策に陥っているとは思わない。テスト結果を教師が冷静に分析し、泉野小独自の対策を練ることが学力向上につながると思う。 ・単年度ではなく、長期で見えていくことが必要だと思う。

⑥ 全国学力・学習状況調査及び市統一学力テスト（４・５年）の保護者への結果公表のあり方	・国語と算数の２教科のみの分析ではあるが、保護者からすれば何の部分が上回って、何の部分が劣るかが分かり、今後の子どもの家庭学習への指導に続くと思う。	
⑦ 啓明中学校との連携	・両校の連携はうまくいっていると感じる。町内会行事に両校長が参加する場合もあり、地域としては感謝している。 ・三校交流会によって、各学校教職員と地域の方々は子どもに対する共有感はあるが、６年生の子どもの中学校への期待や不安感払拭のためには、体験交流の場が数回あるとよいのかと思う。	・中学校生活での不安を解消するために、６年生で交流を多くしてはどうか。 ・６年生の中学校体験交流の充実
⑧ 教職員の学校経営参画意識と服務規律の保持に努めている	・大変なことです。が、教職員の頑張りに期待します。 ・学力向上に取り組んでいる一方で、学校運営、規律の保持や研究心も旺盛である。 ・学校教育目標達成のため、各教職員が子どもや保護者へ親身に接している様子が保護者のアンケートから感じ取れる。また、全教職員が一人一人に対して今後も親身になった受け答えを行ってほしい。	・子ども一人一人の対応は異なると思うが、誠意を持ち対応することにより、改善されていくと考える。
⑨ 特別支援教育の推進を図っている	・学級、学年の枠にとらわれない、各種学校行事への取組が成果をあげていると感じた。今後も更なる交流や共同学習に対して、全教職員が一丸となって取り組むことを期待したい。	・子ども一人一人に対して、分け隔てなく接することが全教職員に求められている。
⑩ 子どもが安心・安全に過ごせる危機管理や安全指導の推進を図っている	・よく指導されている。保護者の姿があまり見られないが、どのような活動をしているのか。 ・防災意識、交通安全等、全般にわたり注意を払っている。地域との情報交流にも努めている。 ・良好である。社会に不安、不信を過度に持たせないほうがよい。 ・最近、特に子どもにかかわる事案が増加して、学校と地域において連携し、早期に対応できる体制が整っていると思う。今後も、学校と地域において各種対策を講じていく必要性を感じている。	・豪雨、大雪、猛吹雪等のときは地域性もあり、学校独自での判断も必要かと思う。 ・市内で何らかの事案が発生した際には、自分たちの立場に置き換えてどのような対応ができるか、何をすべきかを検討し、対策を考えておく必要があると思う。
⑪ 家庭・地域と共にある「特色ある教育」「開かれた学校づくり」の推進を図っている	・努力の結果が現れている。 ・地域との連携や交流も充実し、開かれた学校づくりに努力している。地域安全委員会、ふるさと学習推進等でその成果を出している。 ・外部講師による特色ある授業によって、学校の授業とは違うことが学ぶことができ好評のようだ。	・校外では家庭・地域との連携が必須である。事例や事案を積極的に発してはどうか。 ・この地域には、多様な知識を持った方々が存在している。外部講師の拡充を進めてほしい。
⑫ 食育や食に関する指導を進めている	・食物アレルギーの報告があったが、今後も十分気をつけて指導することを期待している。 ・食育ボードの活用による食の指導や栄養教諭による食育の授業等を行うことで、子どもの食の安全・安心につながっていると思う。	・食育授業の充実を図り、子どもの好き嫌いの解消に努力してほしい。

